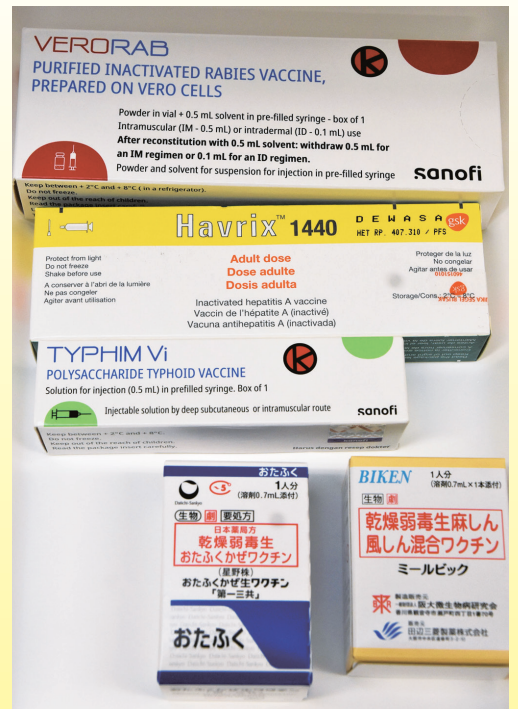


海外旅行は感染症に気を付けて 広島大学病院 感染症科渡航外来



行先の情報集め ワクチン検討を



狂犬病、A型肝炎、腸チフスなどのワクチン

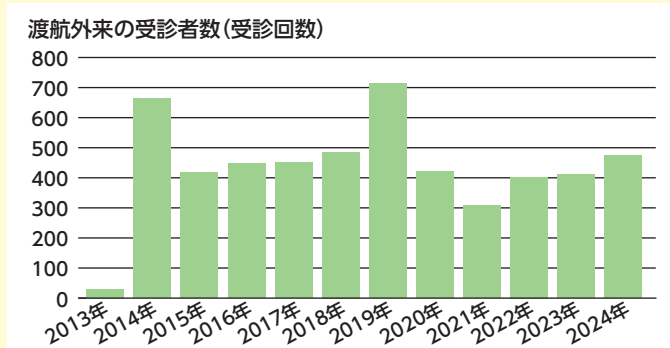
海外旅行は感染症に気を付けて

広島大学病院 感染症科渡航外来

行先の情報集め ワクチン検討を

大阪・関西万博が4月13日から10月13日まで、大阪市此花区の人工島「夢洲(ゆめしま)」で開催されます。約160の国・地域が参加し、それぞれの文化や先進的な取り組みが紹介され、さまざまなアトラクションを繰り広げます。展示や催しから外国への興味が膨らみ、旅行のきっかけになるかもしれません。

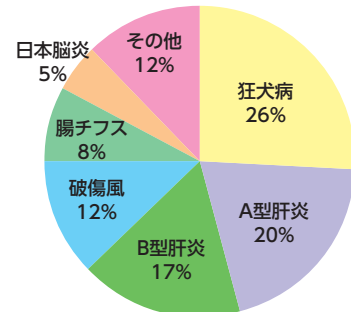
渡航にあたって気を付けなければならないのが感染症です。広島大学病院は感染症科に渡航外来を設けて、ワクチン接種や健康問題への情報提供、帰国後に体調を崩した人の診察などにより、医療・健康面での不安解消や問題解決を支援しています。大森慶太郎医師に、対策や帰国後の注意点を聞きました。



そもそも感染症とは

私たちはウイルス、細菌、真菌、原虫など多くの微生物とともに生きています。微生物がいることだけでは感染症は起こりませんが、なんらかの要因で微生物が増殖し、体に病的変化を与えることがあります。これを感染症と呼びます。微生物の侵入経路は口、皮膚、粘膜などさまざまです。

接種ワクチン種類(2013年～2023年)



注意すべき感染症

渡航先では、日本でもかかる病気、例えばインフルエンザや新型コロナウイルスに感染する可能性があります。しかし通常、日本では感染しない、あるいは頻度が少ない感染症に罹患してしまうことがあります。渡航の際に注意すべき感染症を挙げてみます。

① 経口感染

【A型肝炎】 水、生野菜、果物、甲殻類などA型肝炎ウイルスに汚染された飲食物の摂取や、性交渉を含めた糞口接触で感染します。日本を含め世界中に分布していますが、特に衛生環境が良くない地域ではリスクが高まります。発熱、食欲不振、黄疸、全身倦怠感などの症状が出ます。流行地では、生水や生ものの飲食は避けるようにします。また予防にはワクチンが有効です。

【腸チフス・パラチフス】 感染源、感染経路、流行地域はA型肝炎とほぼ同じで、特に南アジアがリスクの高い地域。発熱、頭痛、倦怠感があります。腸チフスに対してはワクチンがあります。

【カンピロバクター】 カンピロバクターは主に家畜やペットなどの腸内に生息しており、その排泄物に含まれています。鶏肉はリスクの高い食品で、生肉だけでなく、加熱不足の鶏肉も避けましょう。低温に弱く、調理する場合はいったん冷蔵保存するとよいです。下痢、腹痛、嘔吐などが起きます。

② 動物由来

【狂犬病】 感染するとウイルス性脳炎をきたし、致死率はほぼ100%とされます。日本、豪州、ニュージーランド、英国、ノルウェー、スウェーデンを除くすべての国で感染のリスクがあります。犬以外にも、ネコ、キツネ、アライグマ、コウモリなど多くの哺乳動物に注意が必要。ワクチンが予防に有効で、1カ月ほどかけて計3回接種します。海外では哺乳類の動物に触らない、近づかないことが大切です。現地では咬まれた際は、傷口を石鹸で洗ったのち、直ちに現地の医療機関を受診する必要があります。

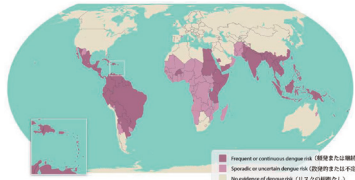


③ 蚊が媒介

【マラリア】 マラリア原虫を持ったハマダラカ属の蚊に刺されることで感染し、放置すると死に至ることがあります。熱帯や亜熱帯が流行地域で、アフリカが最大のリスク地域です。東南アジアでは都市部で感染する可能性はほとんどなく、国境地帯など山間部では感染リスクがあります。1週間から4週間ほどの潜伏期間を置いて、発熱、頭痛、嘔吐、関節痛、筋肉痛などの症状が出ます。マラリアには予防薬があり渡航外来でも処方可能です。

③蚊が媒介

【 Dengue熱 】 デングウイルスによる感染症で、ネッタイシマカが媒介し、南アジアから東南アジア、中南米が主な流行地域です。都市部でも感染します。発熱で発症し、頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹、血小板減少を認めます。特効薬はなく対症療法が治療の中心です。

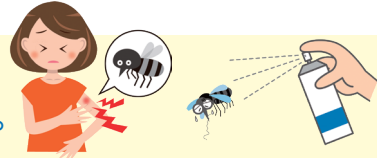


デング熱感染のリスクがある国
出典:アメリカ疾病予防管理センター (CDC)



デング熱皮疹

【 黄熱 】 アフリカや南米の熱帯地域で流行しています。主にネッタイシマカにより感染し、発熱や頭痛など。特別な治療法がないため、ワクチン接種による予防が最も重要で、流行国では入国時にワクチンの接種証明書(イエローカード)の提示が求められる場合があります。広島大学病院では2024年12月からワクチン接種を始めました。中国地方では、広島検疫所、鳥取大学医学部附属病院を含め3カ所に対応しています。



蚊媒介感染症の予防には、蚊が多い場所では、長袖・長ズボンを着用し、虫よけ剤スプレーを使いましょう。

英文診断書、ワクチン接種証明書の発行

米国をはじめ留学や入学にあたっては、過去のワクチン接種歴を記載した接種証明書を求められる事があります。渡航外来では、必要なワクチンの追加接種や、留学・入学に必要な検査や証明書発行も行っています。

国のウェブサイトをチェック

海外の感染症の流行状況は日々変わります。最新の情報は厚生労働省検疫所のウェブサイトFORTH (<https://www.forth.go.jp/>) や外務省海外安全ホームページ (<https://www.anzen.mofa.go.jp/>)、外務省世界の医療事情 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html>) などを確認してください。

発症まで数週間から数カ月という感染症もあります。帰国後、発熱、咳、発疹、下痢などの症状があったら、渡航外来を受診してください。その際、渡航先や滞在期間、現地での飲食状況、渡航先での活動内容、動物との接触の有無、ワクチン接種歴などを伝えてください。

2024年の出国日本人数はコロナ禍以降で初めて1000万人を超え1301万人を数え、訪日外国人旅行者は過去最多の3687万人でした。今後、外国訪問や外国の人たちとの交流は増えていきそうです。感染症対策を十分に、楽しい思い出を残したいですね。

広島大学病院感染症科渡航外来

診察日/火、木曜日 午前8時30分～正午・午後1時30分～4時
 予約・問い合わせ/電話 082-257-5468(平日午前8時30分～午後5時)
 住 所/広島市南区霞1-2-3
 E-mail/kansen@hiroshima-u.ac.jp
 ホームページ/<https://kansen.hiroshima-u.ac.jp>

●渡航外来でお尋ねすること

渡航前
<ul style="list-style-type: none"> ・渡航国、期間、目的(仕事、留学、旅行など) ・希望するワクチン(勤務先からの指定含む) ・過去のワクチン接種歴(母子健康手帳など) ・狂犬病のリスクがある地域か ・農村部に行くか(マラリア、日本脳炎) ・滞在中の活動、けがのリスク(破傷風) ・マラリアや高山病の予防薬は ・入学や留学に必要なワクチン ・英文診断書、英文のワクチン接種証明
渡航後
<ul style="list-style-type: none"> ・症状(発熱、下痢、腹痛、咳、倦怠感など) ・渡航国、期間 ・滞在中の活動、飲食、衛生状況 ・けが、動物や昆虫との接触



お お も り け い た ろ う 大森慶太郎 医師の話

海外渡航後の感染症は潜伏期が1週間以内と短いものが多いですが、潜伏期間が長い感染症にも注意が必要です。例えばマラリアは1週間から4週間の潜伏期間があります。帰国して3週間たって発熱があったら、渡航先で蚊に咬まれたためとは思わないかもしれません。診察の際、医師に最近の渡航歴も伝えることが正確な診断に大切です。またワクチンには1カ月間隔で2回の接種や、6カ月後を含めて3回の接種が必要な種類もあります。渡航前のワクチン接種は早めに準備開始されることをお勧めいたします。

薬剤師、看護師、予約受付や診断書の準備をするクラークなど多職種のスタッフで、渡航をサポートしています。

ニュースアップ

パリアパラ水泳銅の山口尚秀選手がメダル報告 大会前、広島大学病院でリハビリ

パリアパラリンピック競泳100メートル平泳ぎ知的障害クラスで銅メダルを獲得した山口尚秀選手が1月6日、広島大学病院にメダルの報告と診察に訪れました。山口選手は大会直前に左足小指のつけ根を骨折し、地元の愛媛県今治市で手術後、広島大学病院に1週間入院。リハビリに努めた後に渡仏して快挙を達成しました。

メダルを披露した山口選手は「大観衆を前にアドレナリンが出て、痛みは吹っ飛びました。お礼を伝えなかった」と笑顔。リハビリテーション科の三上幸夫教授は「骨折手術から1カ月足らずで大会に出て、さらにメダルもとるのは普通では考えられない。山口選手の力はもちろん、家族や病院などみんなのサポートがあったからこそ」と喜びを分かち合いました。患部のレントゲン撮影をすると、ほぼ骨折の跡が見えなくなるまで回復していました。

山口選手は大会直前の7月31日の練習中に骨折。8月6日にボルトで骨をつなぐ手術を受け8日、広島大学病院に入院しました。歩けない状態でしたが、主に3人の理学療法士がついて、足に負担がかからない持久力・筋力トレーニングなどで体力を改善。14日に退院して渡仏し、9月3日の本番を迎えました。



広島大学病院に次世代CT 高精度、患者さんの負担も軽く

広島大学病院に、高精度の撮影ができるキヤノンメディカルシステムズの次世代コンピュータ断層撮影装置(PCD CT)が導入されました。被ばく線量を低く抑えられるうえ、従来のCTでは困難だった腫瘍の境界や、動脈にできたこぶと腫瘍の鑑別などがしやすく、診断精度が向上しました。導入は世界で3台目です。

CTはX線を使って人体の断面を画像化(輪切り)して体内の様子を立体的に把握できる医療技術です。従来のCTはX線をいったん光に、さらに電気信号に変換して画像を取得するのに対し、PCD CTはX線を直接電気信号に変換でき、より小さな部位や病変と非病変部の違いを際立たせることができます。また、放射線被ばく線量は、臓器により従来のCTの3~9割の低減が見込まれます。

広島大学病院では2024年4月に導入しました。膝関節を撮影した画像では、骨内の微細な構造が明瞭に描出されたほか、小さな血管との連続性が確認でき、腫瘍性の病変と判別しづらかった症例を動脈瘤と診断できたケースがありました。

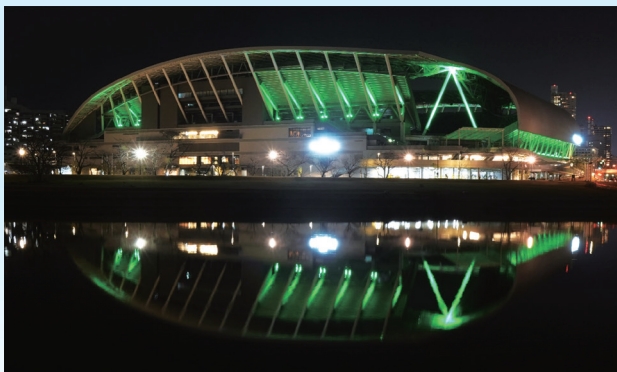


エディオンピースウイング広島を緑に 世界緑内障週間でライトアップ

エディオンピースウイング広島が、グリーンの光に照らし出されました。緑内障の早期診断・治療のため眼科受診の重要性を訴える「世界緑内障週間」(3月9~15日)に合わせ、全国で開催された「ライトアップ in グリーン運動」。広島大学病院もサンフレッチェ広島の協力を得て、実施しました。

緑内障は視覚障害の原因の第一位で、高齢になるほど有病率が高く、40歳以上の20人に1人は、罹患しているという報告もあります。近年は治療する薬剤も増え、手術療法も選択肢が広がっており、早期の発見と、継続治療により日常生活に支障ないレベルを維持するケースも増えています。一方で自覚症状が少なく、気づかない場合が多いとされています。

40歳を過ぎたら眼の定期検診を!



看護師 プラス

看護師の業務が拡大しています。「専門看護師」「認定看護師」は高度化・専門化が進む医療現場でレベルの高い看護を実践できる看護師に認められた資格です。いずれも日本看護協会が認定しています。

専門看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、看護系大学院で修士課程を修了して必要な単位を取得したのちに、専門看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、13分野。認定看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める600時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、21分野です。それぞれの資格を持った看護師がどんな活動をしているのか、紹介していきます。



[専門看護師]
小児看護
武澤 友弘

01 : どんな仕事？

入院・治療を受けている子どもとご家族が安心できるように医療・看護を提供しています。子どもの治療、療養生活、きょうだいの支援、教育機関との連携(復学支援)、地域や他施設との連携、ライフイベントなどのトータルケアを行っています。その中で、子どもとご家族が抱える不安や悩みなどが軽減できるように一緒に考え、支援しています。小児看護CNS(専門看護師)として、子どもの成長発達、権利、倫理面についてスタッフと一緒に考え、看護を実践しています。



02 : きっかけは？

小児看護は、新生児期から思春期の各発達段階に適した関わりが必要となってきます。様々な病気と闘いながら入院生活を過ごしている子どもと関わる中で、一人一人の命の大切さを感じています。また、特殊な環境下で治療を受ける子どもの不安や恐怖心を緩和する関わりや権利を尊重したケアを提供したいと感じています。そのため、子どもの各成長発達段階の理解や権利、倫理について探求したいと思うようになり、小児看護CNSを目指しました。

命があり、周囲の人々との関わりがあるからこそ、うれしいこと、楽しいこと、悲しいことなどを感じるができます。看護師として治療を受ける子どもとご家族の様々な思いを支えられるように看護師として関わっていきたくです。また、看護師と多職種が団結して子どもの治療や療養環境、成長を支えられるように強固に関わっていきたくです。小児看護CNSとして小児看護を担う看護師の育成を行い、子どもとご家族が安心して医療・看護を受けられる環境を築いていきたいと考えています。

03 : 将来へ向けて

命があり、周囲の人々との関わりがあるからこそ、うれしいこと、楽しいこと、悲しいことなどを感じるができます。看護師として治療を受ける子どもとご家族の様々な思いを支えられるように看護師として関わっていきたくです。また、看護師と多職種が団結して子どもの治療や療養環境、成長を支えられるように強固に関わっていきたくです。小児看護CNSとして小児看護を担う看護師の育成を行い、子どもとご家族が安心して医療・看護を受けられる環境を築いていきたいと考えています。



[認定看護師]
感染管理
中曾 亜佐美

01 : どんな仕事？

感染管理認定看護師の主な役割は、病院や医療施設内で感染症の予防と管理を行うことです。感染症の予防や教育・啓発活動、感染症発生状況の監視や対応、感染対策の実施などがあげられます。当院には複数名の感染管理認定看護師が在籍し、私は一般病棟で看護師長として勤務しています。自身の所属する病棟で感染管理の技術や知識を共有し、チーム全体の感染対策レベルの向上や、実際の感染対策の実践を直接支援し、患者さんやご家族が安全に医療を受けられると同時に、スタッフも安心して医療を提供できるよう活動しています。



02 : きっかけは？

看護師になって4年目に先輩に誘われて、感染対策の研修会に参加したとき、正しい手技だと思っていたことが間違っていたことを知り、「新しい、正しい感染対策を学びたい。病棟みんなで正しい感染対策ができるようになればいい」と強い関心を持ちました。当時外科病棟にいたこともあり、術後感染症への対応についても、もっと改善できないか感じていました。しかし、病棟の中堅看護師であった頃は、まず自分が正しく行うことが精一杯で、感染対策の重要性が医療現場で徐々に広がりをみせても、現場のスタッフ全員で行うのはとても難しいことでした。そこで感染対策についてより専門的な知識を持ち、医療現場の感染対策を改善したいと感じ、資格を取得しました。

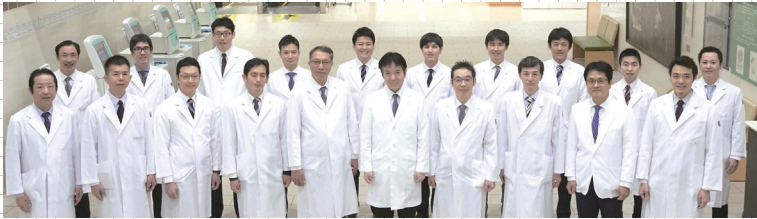
03 : 将来へ向けて

認定看護師の資格を取得してから、来年で15年になります。その中でCOVID-19感染症の世界的流行は、現場で実践する一人として、入院している患者さんやご家族にとっても、診療にあたる医療者にとっても不安が大きく、みんなが安心して対応できるよう支援・協力したことは、得難い経験です。大学病院のような医療施設だけでなく、高齢者福祉施設などでも対応に困ったり、不安に感じたりした医療従事者の方々も多くおられました。現在は県内の施設や他施設の看護スタッフの方を対象に、知識と技術の支援を行う機会もいただくこともあり、院内のスタッフだけでなく、幅広い方へ感染対策の支援を今後も継続していきたいと考えています。

診療科最前線

「脳神経外科」

(診療科長:堀江信貴教授)



像と新たな画像解析方法を用いることで、治療成績、研究分野の両方において、さらなる発展が期待されます。

脳腫瘍・下垂体領域においては経鼻アプローチや神経内視鏡などを駆使し、低侵襲に腫瘍摘出することもできるようになっています。また、悪性脳腫瘍に対する治療方針

決定のために以前は開頭生検術を行っていましたが、2023年よりMedtronic社の手術支援ロボットStelth Autoguideが導入され、脳腫瘍の位置情報から作成した手術計画に基づいて自動で定位的なルートを作成することで安全性を担保しつつ開頭を伴わない生検術が実現されています。

てんかん分野においては、2022年にZimmer Biomet社の手術支援ロボットROSA One Brainが西日本で初めて当院に導入されました。難治性てんかんの焦点診断目的の頭蓋内脳波検査を行う際、開頭操作を行わない低侵襲な方法でかつ効率的に頭蓋内電極を設置することが可能となっています。

▶ 診療科の特徴

脳神経外科は神経系疾患について広く研究し、治療する医学、医療の一分野です。当科では、脳血管障害や脳神経外傷、脳腫瘍に対する診療はもちろんですが、これらに加えててんかん、三叉神経痛、顔面けいれん等の機能的疾患に対する外科治療や、小児脳神経疾患、脊髄・脊椎・末梢神経疾患の診断・治療にも対応しています。常に新しい治療法を取り入れ、脳血管内手術や内視鏡手術をはじめとした患者さんに優しい低侵襲手術を積極的に進めています。

▶ 得意分野

世界的にも誇れるエキスパートを脳血管障害、脳腫瘍、下垂体、てんかん、頭蓋底・脊椎分野に擁しており、最良の医療を提供すべく日々の研鑽に努めております。各領域で優れた研究・診療実績を上げています。

▶ 最新のトピックス

血管障害領域においては特に脳血管内治療におけるデバイスの進歩は目覚ましく、これまで治療困難であった大型動脈瘤などへの治療もできるようになってきました。また2025年3月にはハイブリッド手術室が更新され、SIEMENS社の最新の血管撮影装置(ARTIS icono D-Spin)も導入し、より鮮明な画



ARTIS icono D-Spin



Stelth Autoguide

ROSA One Brain

催しのご案内

(2025年4月~6月)

肝臓病教室

「肝疾患における検査の見方

～画像検査編～」

講師：放射線診断科 医師 近藤翔太

「肝疾患における検査の見方

～血液検査編～」

講師：診療支援部臨床検査部門
臨床検査技師 小林晴菜

6月9日(月) 15:00~16:00

会場：臨床管理棟3階3、4会議室

申込：不要(参加費無料)

問い合わせ：肝疾患相談室

☎082-257-1541

(10:00~12:00 13:00~16:00)



がん治療を支える患者サロン

がんとりハビリテーション

5月15日(木) 13:30~14:30

会場：臨床管理棟3階 3F2会議室/zoom

講師：理学療法士

大腸がんの最新治療について

6月18日(水) 13:30~14:30

会場：臨床管理棟3階 3F2会議室/zoom

講師：消化器外科 医師 下村学

甲状腺癌の治療の進歩

7月17日(木) 13:30~14:30

会場：臨床管理棟3階 3F4会議室/zoom

講師：耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医師 築家伸幸

患者おしゃべり会

5月27日(火) 7月22日(火) 13:30~14:30

会場：いずれも広島大学病院診療棟2階 健康情報プラザ

申し込み・問い合わせ：がん相談支援センター ☎082-257-1525